

防災訓練への米軍機オスプレイ参加問題についての申入れ

2014年7月31日

11:00~12:00

衆議院第2議員会館第2会議室

<省庁出席者>

防衛省防衛政策局日米防衛協力課

関 班長

防衛省運用企画局事態対処課

山下 部員

防衛省地方協力局補償課

高地 部員

防衛省地方協力局地方協力企画課

大江 係長

内閣府

内閣府政策統括官付参事官付参事官補佐

吉岡正一

<省庁回答>

1. オスプレイは垂直離着陸の能力と、固定翼機の速度と行動範囲を組み合わせた能力の高い航空機。CH-46と比較しても、最大の速度は約2倍、搭載量は約3倍、行動半径は約4倍になっている。この高い性能と多機能性により、発災直後の避難者の支援で、米軍ヘリと比較して、幅広く大きく貢献できる能力を有している。防災訓練でのオスプレイの参加はより有効になると考えている。昨年末のフィリピンでの台風被害で、14機のオスプレイが救援活動に参加している。
2. オスプレイに対して懸念や不安を抱いているということは承知している。その原因として、我が国に配備となる前に事故があったことも併せて承知している。モロッコ、フロリダで配備直前に起きた事故で、事故原因についてアメリカ側が事故原因を究明し、またその再発防止に努めていたが、わが国での運用の安全性をさらに担保するために、政府横断的に分析調査チームを立ち上げて、安全性を確認し、米軍に提起してきた経緯がある。一昨年9月の日米合同委員会で人的要因に伴う再発防止策を取りまとめた。さらにわが国での運用の安全を確保するという観点から、市街地上空を極力飛行しない。低空飛行訓練では200フィート以下は飛行しないということを合わせて合意している。日米合意を順守していくということで、オスプレイの飛行の安全性を確保できる。日米防衛省会談においてもこの点を申入れ、ヘーゲル国防長官からも

運用上の安全を確保するという言葉もいただいている。

3. オスプレイの垂直モードに際して、激しいダウンウォッシュがあるのではないかと
いう点について。エンジンが直噴するのを避けるためにディフレクタという装置があり、
パイロットの操縦に合わせて、自動的にディフレクタが作動されるようになっている。
着陸時には極力地面に当たらないような工夫がなされている。ヘリモードになると下
降気流が激しいという点があるが、CH-46と比較してもデータ上も激しいという
ことは認められるが、米軍が独自で行った環境影響評価によれば、環境に重大な影響
を及ぼすものではないといわれている。
4. 昨年の10月の饗庭野演習場で日米共同訓練が行われた。当時は台風の影響で風速1
9mから20mのなか、安全に訓練が行われた。風に著しく弱いと断定することはで
きない。
5. 防災訓練時に米軍が事故を起こした場合、日米地位協定第18条5項の規定により、
我が国と米国とで協議のうえ、被害者に賠償する。

<個別質問>

1. 米軍が防災訓練に参加することに関して、地方自治体から要請があった場合、政府の
窓口はどこになるのか。

→地方自治体から米軍の参加のニーズがあれば、防衛省が中継ぎを行うことは従来か
ら行ってきた。静岡県のように日頃から在日米軍と連携をとっているところでは、
直接調整しているということは聞いている。
2. 関西の防災訓練では米軍に対して要請しているが、そうした件数は把握しているか

→自治体が自ら企画した訓練については承知していない。
防災訓練を防衛省・自衛隊で企画して、机上訓練では平成24年から参加してい
た
だいている。
3. 中止になった高知県での訓練では、どのような訓練内容だったのか。

→和歌山県が主催で自衛隊・米軍が参加して津波災害に対応する訓練がある。
オスプレイの活用方法として、航続距離が長く滑走路がなくとも離着陸できる特性
があるので救援物資を孤立した地域に送ったり、負傷者の搬送に活用をできる。

負傷者の搬送について、負傷者として誰が乗るのかということについては、調整中。県の職員で検討されると考えている。

中止となった高知県でもオスプレイの特性を生かした、同様なことを行う予定だった。

4. オスプレイの飛行中止はかならずしも悪天候の影響とは思えない部分もある。自衛隊のヘリや防災ヘリは訓練に参加していた。

→普天間から訓練会場となる高知県の間天候が不良で飛行できなかった、と聞いている。

パイロットが気候条件を勘案して飛行を決定するが、直前まで待ったが天候の回復が見込まれなかったことによる。

5. 省庁横断的に分析評価チームを作られているということだが、オスプレイの構造上の問題というのは検討されたのか。

→モロッコ、フロリダでの事故は、機体の構造上の問題ではなく、マニュアル通りの操縦をしていなかったことが原因であるとの結論に至った。

7. 前方に行くオスプレイとその後続機のオスプレイの一方のローターが後方乱気流に巻き込まれ、片方ローターが気流の影響を受けなくなると、バランスを壊すのでは。後方乱気流による墜落の要素はないのか。

→そこまでの知見は有していないが、航空機の特性に合ったマニュアルがあって、マニュアルを守ったかどうかは今回の検討であった。

調査は構造上の欠陥があったのかどうか。次に欠陥がないのであれば操縦の要領の問題があったかどうか。さらに操縦はマニュアルの沿ったものなのかどうか。以上を検討して事故のレビューがなされた。

8. 構造上の欠陥というのは、オスプレイが本来持っている機能の範囲でしか検討をされていないのではないのか。構造上の問題というのは、二つのローターがついていることで、それと空気の一様性は必ずしも一致するわけではない。片方が上向きに力が強く、もう一方が下向きに力が働いている場合、地形の関係や後方乱気流でバランスを崩すことは起こりうることだが。一個のヘリのほうがよっぽど安定していると思うが、そうした構造上の懸念はないのか。

→二つのエンジンを積んでいるということ为前提として運用しているので、一つのエ

ンジンとの比較は事故原因調査のレビューにはない。

9. 防災訓練に際し、地方自治体から米軍の参加要請を行う場合、防衛省が窓口になるということはわかったが、省庁間の横断での調整はあるのか

→訓練内容による。高知の場合は防災訓練に米軍が実動訓練をするという初めての訓練だったので、省庁間の連携は図っていた。

10. 地元には反対の声もあるが、政府として防災訓練に米軍が参加することに対して統一の見解はあるのか

→東日本大震災の経験から、大規模災害時には自衛隊だけでは対応できない。救援に入る機関が多ければ多いほど、円滑な救助を行う必要がある。政府としても外国からの支援についても防災基本計画で今後取り組むことを踏まえている。防衛省においても、在日米軍との連携で改正を図っているところ。

11. 安全性について日米合同委員会の合意事項を守ってもらうということであったが、厚木基地にオスプレイが飛来した時は、市街地ですでに転換モードになっていた。

→状況証拠として角度を割り出すための基準となる風景、写真の撮影角度、基準となる背景があるかないかがモードを確認する際問題になる。いずれにしても合意順守を米側に求めていく。

12. 軍隊が防災訓練に参加するという法的な根拠は。米軍が災害支援をするという法的な根拠はなにか。

→政府による意思決定、政府間でお互いに助ける用意があり、お互いのニーズがマッチしてもの。

13. 米国の国内法で米軍が災害支援する根拠は法的にあるのか。

→承知の限りでは特段あるとは聞いていない。

14. 水難事故の場合、防災ヘリが救助で人を釣り上げるという運用があると思うが、オスプレイではどうなのか。

→沖縄ではやっている。

15. 実際の災害救援の場面で、オスプレイの運用は技術的に大丈夫なのか

→昨年のフィリピンの台風被害の際に、滑走路がないような場所で着陸したうえで、物資の輸送などを行っている。

16. 中国地方の知事会がオスプレイの飛行計画を事前提出の要望を出しているが、防衛省としてオスプレイの飛行計画を事前に出すという考えはあるか。

→フライトプランは国交省になるが、飛行管制のためにやり取りをするという非常に限定的な使われ方をしている。我々も承知できない立場にある。

防衛省としても、米軍から独自に仕入れて、希望があれば自治体に、できる限り事前にお知らせしている。

17. オスプレイの低空飛行訓練の場合、民間のドクターヘリなどと遭遇するなど、危険な状況になる可能性もあり、公開しないことによる危険もある。

→その点も承知はしているが、、わが国国内の航空運用をいかに安全に保つかということだが、今日は国交省の担当者がいない。

18. 防災訓練等の場合はあらかじめ日程、時間もわかっている。そうした場合は米軍に問い合わせ、自治体に対して情報をお知らせしていただくということによろしいか。

→日米協議のなかで運用上差し支えない情報であれば、可能な限り地元自治体に情報提供していく準備はある。

19. 排気の熱で枯草が燃えてオスプレイが炎上するという事故があったが、いかがか。

→6月のノースカロライナと思われるが。もともと着陸を予定しなかった不定形地に着陸したがゆえに、そうした火災が起きてしまったということを知っている。

20. 着陸して枯草が燃え、機体が炎上してのでは、災害救援としては期待ができない。

→細かい状況まで聞いていない。いずれにしても排気についてはディフレクタとい

う装置で外に逃がす。このことで火災等の可能性を低くしている。実際にフィリピンでの災害救援で滑走路のないようなところで運用している。災害救援の運用に適していると認識している。

以上